

【本時案】

第1時(見通し1の準備となる授業。)

- (1) ねらい
「わらぐつの中の神様」を通読し、登場人物の気持ちや情景について大要をとらえる。
学習のねらいを知り、なりきりスピーチその のメモを作成する。
- (2) 準備
(教師) 学習プリント 児童用・掲示用、言葉プリント、メモ作成用紙(2種類)、付せん紙
学習目標 を書いた掲示物、スピーチその の課題を書いた掲示物、
「だれが」「だれに」「何を」の掲示物、教材本文を拡大した掲示物
(児童) 教科書、ノート、筆記用具

(3) 展開(1/6)

(於) 5年1組の教室

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
<p>話す力を高めていくことへの意欲をもつ。</p> <p>学習のめあてを知る。</p>	15	<p>話すことが最初から上手にできなくても、それを支えてくれる聞き手がいれば、少しずつ自信を持って話すことができることを児童が感じられるよう、教師が例示する。これから行う学習の見通しがもてるよう、「わらぐつの中の神様」の文章を使って、楽しく話す力をつけていくものであることを伝える。</p> <p>学習のめあてがもてるよう、なりきりスピーチの課題のいくつかを示す。 「今は『わらぐつの中の神様』という文章を読んで、もしみんながおみつさんだったら、自分の作ったわらぐつを買ってもらうために、お客さんにどんな風に話すだろう。もし、みんなが雪げただったら、マサエに何て話すだろう。これからやっていくのは、この『わらぐつの中の神様』という文章をもとに、登場人物や物になって『なりきりスピーチ』をしていく勉強です。」 意欲を高められるよう、学習目標を黒板に掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習目標 「わらぐつの中の神様」でスピーチ名人になろう！</p> </div>	
<p>本文を読んで得た内容を基に、メモを作成し、スピーチを行う。</p>		<p>課題を提示する。(掲示物を黒板に掲示する)</p> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(なりきりスピーチその のメモ作り) 《お父さん、お母さん、雪げたを買ってよ!》のメモ おみつさんになって、雪げたを買ってもらおうと、両親に話すスピーチのためのメモ作りをしよう。</p> </div> <p>その際、「だれが」「だれに」「何を」話すスピーチかを板書で確認する。 活動の見通しが持てるよう、まず、スピーチその のためのメモを作ることを確認する。 課題に合ったメモが作れるよう、課題に関係する叙述の部分に着目しながら読む活動を支援する。 読めない漢字や意味のわからない言葉を確認できるよう、範読をする。 わからない言葉の意味を理解できるよう、「言葉プリント」を活用する。 スピーチに必要な本文の内容を確認できるよう、学習プリント を用いる。 おみつさんの雪げたへの思いを本文から具体的に読み取れるよう、P.10～P.13.L1を読むことを伝える。 内容を正しく理解できるよう、学級全体でスピーチその の課題の内容について、重点となるいくつかを確認を</p>	<p>【関・意・態】 《スピーチその のメモ》 テーマに関連する叙述に即してメモを作成しようとしている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙の記述の分析)</p> <p>【話・聞】 《スピーチその のメモ》 メモを基に、テーマに沿ってスピーチしている。 (児童の活動の様子及び使用したメモ作成用紙記述の分析)</p>

<p>次時の予告を聞く。</p>	<p>30</p> <p>する。 その際、教材本文を掲示し、児童の発言で確認する。 話し方、聞き方、話す目的を確認できるよう、問いかけをする。</p> <p>【おみつさんの雪げたへの思い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ げた屋さんの前で目についた、雪げたのかわいらしさ ・ こづかいで買えるねだんでは、ない。 ・ いつもは、余計な物など、ほしいと思ったことはないのに、この雪げたばかりは、なんとしてもあきらめきれない。 ・ 「ねえ、わたしを買ってください。あんたが買ってくれたら、うれしいな。」と、雪げたがよびかけているように思えた。 <p>話の内容を見つげられるよう、学習プリントを見直すように声かけをする。 話の中心を一つ決めるように助言する。 メモの作成においては、自分のやりやすいやり方でメモ作りができるよう、用紙や付せん紙を用意しておく。 メモの構成の仕方に気付くよう、メモ作成時に机間指導を行い、声かけをする。 次の活動がよりよく進められるように、早く書けた人は、それを使ってスピーチの練習をしていることを指示しておく。</p> <p>次時の見通しが持てるよう、「スピーチその」を家の人にしてきた感想を聞くことを伝える。</p>	<p>【言】</p> <p>《スピーチそのメモ》</p> <p>テーマに関連する叙述に即してメモを作成している。 (児童が使用したメモ作成用紙記述の分析)</p>
------------------	--	--

第2時(スピーチそのの振り返りと見直し1にかかわる授業。太線枠内が検証に関係する部分。授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
 なりきりスピーチそのを振り返る。
 モデルスピーチを聞き比べたり、スピーチメモを見比べたりして、「スピーチをするためのメモの書き方や生かし方」を理解する。
- (2) 準備
 (教師) ふりかえりカード、モデルスピーチを録画してあるビデオテープ、TV、ビデオデッキ
 学習プリント、モデルスピーチのメモ、フラッシュカード、
 メモの書き方・生かし方をまとめた掲示物(「名人カード」の拡大紙)
 (児童) 教科書、ノート、筆記用具

(3) 展開(2/6) (於)5年1組の教室

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)						
なりきりスピーチを振り返る。	5	メモを用い、どのような思いでスピーチをしたかどうかを把握できるよう、ふりかえりカードを用いる。							
モデルスピーチ、を比べ、分かりやすさの原因を考える。		<p>分かりやすいスピーチをするための観念に気付くことができるよう、二つの対照的なスピーチ(モデルスピーチ、)を視聴し、それを比べたり、メモを見比べたりする活動を行う。 その際、二つのモデルスピーチの違いを視聴しながら確認できるよう、比べるめあてを入れた学習プリントを活用する。 二つのモデルスピーチの違いを明確にするために、次表のようにモデルスピーチを行う。</p> <table border="1" data-bbox="454 1904 1173 2004"> <tr> <td></td> <td>モデルスピーチ</td> <td>モデルスピーチ</td> </tr> <tr> <td>メ</td> <td>文章で書いたメモを作成して</td> <td>付せん紙に書いたキーワードで</td> </tr> </table>		モデルスピーチ	モデルスピーチ	メ	文章で書いたメモを作成して	付せん紙に書いたキーワードで	<p>【関・意・態】</p> <p>分かりやすく聞きやすいスピーチの条件を、自分なりに学習プリントにまとめている。 (活動の様子を観察及び学習プリントの記述の分析)</p>
	モデルスピーチ	モデルスピーチ							
メ	文章で書いたメモを作成して	付せん紙に書いたキーワードで							

	モの書き方	いる。 終わりで結論を述べる構成（尾括式の構成）になっている。	メモを作成している。 はじめと終わりで一番言いたいことを述べる構成（双括式の構成）になっている。	【話・聞】 分かりやすいスピーチをするためのメモの書き方や生かし方を書き出している。 （学習プリントの記述の分析）	
	メモの生かし方	抑揚や間のない平板な話し方をしている。 メモから目を離さず読んでいる。 身振りはない。 やや小さめの声で話す。	抑揚や間を工夫した話し方をしている。 メモをもとに、聞き手をなるべく見ながら話している。 身振りを交えている。 聞き手が聞きやすい声の大きさや速さで話す。		
(1) ビデオを見比べる。	40	児童一人一人の考えを把握できるよう、挙手で確認する。 モデルスピーチの方が分かりやすいことに気付けるよう、モデルスピーチとの違いに着眼するように助言する。			【言】 話す「音量」や「速度」、「相手を見ながら」話すことなどに着目して、正しい言葉を用いている。 （学習プリントの記述の分析）
(2) 、どちらが分かりやすいか考える。		自分の意見が明確に書けるよう、学習プリントを活用する。 理由が明確に短時間で共通理解できるよう、フラッシュカードで確認する。 その際、机間指導時に児童がフラッシュカードに書くように指示する。 活動の意欲化を図れるよう、一つでも気付いたことを多くの児童に知らせる。			
(3) 分かりやすかった理由を書く。		メモの工夫に気付けるよう、なぜモデルスピーチの方が分かりやすかったのか、という視点で学習プリントに理由を書く。 気付いたことをたくさん書くように声かけをする。			
(4) メモを見比べ分かりやすかった理由を書く。		分かりやすさの原因を明確にできるよう、「スピーチ名人カード」に整理する。 その際、「名人カード」の拡大紙を掲示する。 話す速度や音量、聞き手を見ながら話すことなどのうち、声の大きさなど具体的な観点に注意して学習プリントに書けるように声かけをする。			
(5) 気付いたメモの書き方と生かし方を整理する。		次時の見通しが持てるよう、「スピーチその」とは違うテーマで行うことを伝える。			
次時の予告を聞く。					

第3時（見通し2にかかわる授業。太線枠内が検証に関係する部分。

授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。）

- (1) ねらい
なりきりスピーチそのを行い、それを自他で振り返ることにより、自分のスピーチの向上を自覚し、より分かりやすいスピーチにしていく。
- (2) 準備
（教師）学習目標を書いた掲示物、スピーチ名人カード（裏：ふりかえりカード～）、付せん紙、スピーチ名人カード（掲示用）、モデルスピーチのメモ（掲示用）、スピーチそのの課題を書いた掲示物、「だれが」「だれに」「何を」の掲示物、メモ作成用紙、フラッシュカード、スピーチ台、お面（おみつさん）、ワッペン（「おみつさん」の文字と絵の2種類）、カセットテープレコーダー9台
（児童）教科書、ノート、筆記用具、色鉛筆

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
<p>メモを作成してなりきりスピーチそののを行い、グループで互いに聞き合い、振り返る。</p> <p>(1)スピーチそののメモを作る。</p>	15	<p>(なりきりスピーチそのの) 《お客さん、わらぐつを買ってよ!》 もう一度おみつさんになって、自分で作ったわらぐつのよさを、お客さんに説明したスピーチを振り返ろう。</p> <p>主体的に学習に取り組めるよう、各自のメモづくりや練習を支援する。なりきりスピーチそののへのめあてが持てるよう、「キーワード」でメモを書き、「相手を見ながら」スピーチをすることをめあてとすることを確認する。その際、「スピーチ名人カード」を黒板に掲示する。おみつさんが自分で作ったわらぐつのよさを本文から具体的に読み取れるよう、P.14～P.16.L1を読むことを伝える。テーマに合ったスピーチそのののメモ作りができるように、教材本文の叙述に着目し、内容を理解する時間を取るようにする。全員が内容を正しく理解できるよう、机間指導を行い、児童の考えのいくつかをフラッシュカードで全体に示す。よりよいメモを作成できるよう、メモの生かし方のいろいろな観点に着目するように声かけをする。 【おみつさんが自分で作ったわらぐつのよさ】 ・少し格好は悪いが、はきやすい。 ・あったかい。 ・少しでも長もちするように。 ・心をこめて、しっかりわらを編んだ。</p>	<p>【関・意・態】 《スピーチそのの》 前時の学びを取り入れて、自分のスピーチがより分かりやすいものとなるよう「キーワード」「相手を見ながら」に注意し、次のスピーチへの改善点を探している。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードの記述の分析)</p> <p>【話・聞】 《スピーチそのの》 スピーチ名人カードのめあてを基に、「キーワード」「相手を見ながら」に注意して話したり、聞いたりできたかを振り返り、次のスピーチへの改善点に気付いている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>
<p>(2)スピーチそのの練習を行う。</p>	10	<p>話すことへの抵抗を緩和し、時間の効率化を図れるよう、練習及び本番は、グループごとに行う。自分が納得のいくまで、何度も練習してよいことを伝える。心理的な負担を軽減できるよう、3～4人のグループでスピーチを行う。その際、互いのスピーチの変化が見取れるよう、グループの構成員は、スピーチそののと同じ構成員で行う。</p>	<p>【言】 《スピーチそのの》 スピーチ名人カードのめあてを基に、「相手を見ながら」話すことに着目して振り返っている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>
<p>(3)スピーチそのの本番を行い、互いのスピーチについての相互評価及び、自分のスピーチについての自己評価を行う。</p>	20	<p>話し手が自らのスピーチを評価することができるよう、聞き手はスピーチで効果があった観点を、話し手に伝えるよう助言する。スピーチ後、相互評価を効果的に行えるよう、付せん紙を活用する。効果的な自己評価になるよう、「スピーチ名人カード」を活用する。より分かりやすく話すためのメモの改善点を考えられるよう、聞き手からの評価を基に、自分のメモを見直すように声かけをする。机間指導の際に、「メモの書き方の工夫、話し方の工夫」の中から一つでも改善点が見つけられていたら、積極的に認め、励ます。前時のスピーチと比べて進歩してきた点をメモの書き方や話し方から、具体的に提示する。グループでのアドバイス後に、今回のめあて「キーワード」「相手を見ながら」を次のスピーチに生かせるよう、今回行ったスピーチの中身に関連づけて、具体的な助言をする。メモに書くキーワードや適切な言葉遣いの手がかりとなるよう、友達の考えのいくつかを黒板に例示する。メモ作りの効率化を図れるよう、「はじめ」と「終わり」をあらかじめ示してあるメモ用紙を活用する。</p>	<p>【言】 《スピーチそのの》 スピーチ名人カードのめあてを基に、「相手を見ながら」話すことに着目して振り返っている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>

	自分の声の大きさや速さの適切さを直せるよう、録音機器などを活用するように助言する。 よりよいスピーチとなるよう、いろいろな観点を取り入れているか問いかける。	
--	---	--

第4時(見通し2にかかわる授業。太線枠内が検証に関係する部分。
 授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
 なりきりスピーチその を行い、それを自他で振り返ることにより、自分のスピーチの向上を自覚し、より分かりやすいスピーチにしていく。
- (2) 準備
 (教師) 学習目標 を書いた掲示物、スピーチ名人カード(裏：ふりかえりカード ~)、付せん紙、スピーチ名人カード(掲示用)、モデルスピーチ のメモ(掲示用)、
 スピーチその の課題を書いた掲示物、「だれが」「だれに」「何を」の掲示物、メモ作成用紙、フラッシュカード、スピーチ台、お面・(雪げた)、ワッペン(「雪げた」の文字と絵の2種類)、カセットテープレコーダー9台
 (児童) 教科書、ノート、筆記用具、色鉛筆

(3) 展開(4/6) (於)第二音楽室

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
メモを作成してなりきりスピーチその を行い、グループで互いに聞き合い、振り返る。 (1) スピーチその のメモを作る。	15	<div style="border: 2px dashed gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(なりきりスピーチその) 《マサエちゃん、わたしがここにいるのはね。》 雪げたになって、今、マサエの家のおし入れのたなの上 にいるわけを、マサエに話したスピーチを振り返ろう。</p> </div> <p>なりきりスピーチその へのめあてとして、結論の内容や位置を工夫することの効果に気付くことができるよう、例示する。その際、「スピーチ名人カード」を黒板に掲示する。主体的に学習に取り組めるよう、メモづくりや練習を支援する。おみつさんが自分で作ったわらぐつのよさを本文から具体的に読み取れるよう、P.23.L 10 ~ P.27を読むことを伝える。</p> <p>テーマに合ったスピーチその のメモ作りができるように、教材本文の叙述に着目し、内容を理解する時間を取るようにする。</p> <p>全員が内容を正しく理解できるよう、机間指導を行い、児童の考えのいくつかをフラッシュカードで全体に示す。</p> <p>よりよいメモを作成できるよう、効果的な間の取り方など、メモの生かし方の観点到に着目するように声かけをする。</p> <p>【雪げたが、たなの上にあることについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんに買われたこと。 ・おみつさんがとてもうれしがってなかなかはいってくれなかった。 ・おみつさんが、そのうちにはこうと思っているうちに年をとって、はかなくなってしまった。 	<p>【関・意・態】 《スピーチその 》 前時の学びを取り入れるとともに、結論の内容や位置を工夫し、自分のスピーチがより分かりやすいものとなるように注意し、次のスピーチへの改善点を探している。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカード の記述の分析)</p> <p>【話・聞】 《スピーチその 》 スピーチ名人カードのめあてを基に話したり、聞いたりでできたかを振り返り、次のスピーチへの改善点に気付いている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードその の記述の分析)</p>
(2) スピーチその の練習を行う。	10	<p>話すことへの抵抗を緩和し、時間の効率化を図れるよう、スピーチ練習発表及び本番発表は、グループごとに行う。自分が納得のいくまで、何度も練習してよいことを伝える。</p> <p>その際、互いのスピーチの変化が見取れるよう、グループの構成員は、スピーチその と同じ構成員で行う。</p>	

<p>(3)スピーチそのの本番発表を行い、互いのスピーチについての相互評価及び、自分のスピーチについての自己評価を行う。</p>	<p>20</p> <p>分かりやすいスピーチの観点が身に付いたかどうかを確かめることができるよう、スピーチを聞き合い、評価し合う活動を支援する。スピーチ後、相互評価を効果的に行えるよう、付せん紙を活用する。効果的な自己評価になるよう、「スピーチ名人カード」を活用する。個々の課題が明確になるよう、「スピーチ名人カード」を確認するように助言を行う。スピーチの評価を効果的に行えるよう、児童が聞き合う活動において、教師も積極的に認め励ます。机間指導の際に、「メモの書き方の工夫、話し方の工夫」の中から一つでも改善点が見つけれられていたら、積極的に認め、励ます。前時のスピーチと比べて進歩してきた点をメモの書き方や話し方から、具体的に提示する。グループでのアドバイス後に、今回のめあて「結論の内容や位置」を次のスピーチに生かせるよう、今回行ったスピーチの中身に関連づけて、具体的な助言をする。適切な言葉遣いの手がかりとなるよう、友達の考えたキーワードを黒板に例示する。自分の声の大きさや速さの適切さを直せるよう、録音機器などを活用するように助言する。よりよいスピーチとなるよう、スピーチで不十分だった観定のすべてを取り入れているか問いかける。</p>	<p>【言】</p> <p>《スピーチその》</p> <p>スピーチ名人カードのめあてを基に話すことに着目して振り返っている。</p> <p>(活動の様子を観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>
--	---	--

第5時(スピーチその～までを振り返り、自他のスピーチの変化を自覚し、さらに分かりやすいスピーチにしようと思欲を高め、最後のなりきりスピーチのメモ作りを行う見通し3の前半である。太線枠内が検証に関係する部分。授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
 これまでのスピーチその～を振り返り、自他のスピーチの変化に気付き、さらに分かりやすいスピーチにしようと思欲を高めている。
 なりきりスピーチその～の振り返りで気付いた自分のスピーチの進歩を基に、スピーチ学習の集大成である、なりきりスピーチのめあてを決め、メモを作成する。
- (2) 準備
 (教師)付せん紙、これまでに作成したメモのコピーをを張った模造紙、スピーチ名人カード(児童用・掲示用)、学習目標を書いた掲示物、メモ作成用紙(児童用・掲示用)、なりきりスピーチそののテーマを書いた掲示物、児童の考えを書くための画用紙短冊(掲示用)
 (児童)教科書、筆記用具、赤鉛筆、

(3) 展開(5/6) (於)体育館

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
<p>今までしてきたスピーチその～を振り返り、自分や友達のスピーチの進歩を見つける。</p> <p>(1)自分のスピーチの進歩を見つける。</p> <p>(2)同じグループの友達の進歩を互いに見つけ合う。</p>	<p>互いの表現力の高まりを自覚し、自己肯定感を持つことができるよう、スピーチ～のメモと「スピーチ名人カード」が一目で見られるよう、一枚の紙に張る。</p> <p>最初に、自分のスピーチの進歩を明らかにできるよう、メモの書き方や生かし方の変化をメモや「スピーチ名人カード」をよく見比べて付せん紙に記入し、所定の場所に張る。</p> <p>次に、友達の進歩に気付けるよう、同じグループの友達のメモの書き方や生かし方の変化をメモや「スピーチ名人カード」をよく見比べて付せん紙に記入し、所定の場所に張る。</p>		

<p>(3) 他のグループの友達の進歩を互いに見つけ合う。</p>	25	<p>より多くのスピーチの変化や進歩が自覚できるよう、他グループの友達のスピーチの進歩をメモや「スピーチ名人カード」をよく見比べて付せん紙に記入し、所定の場所に張る。 効果的な振り返りとなるよう、メモの変化から見つけたどんな小さな進歩でも書くように呼びかける。</p>	
<p>(4) 自分で気付いたり、友達から教えてもらったたりした自分のスピーチの進歩を最後にスピーチへのめあてを決める。</p>		<p>最後のスピーチへのめあてを自覚できるよう、スピーチメモの書き方と生かし方、それぞれ一つずつ、重点とするめあてを決め、「スピーチ名人カード」のめあて番号に赤鉛筆で丸をつける。 成長をメモや「スピーチ名人カード」の変化から具体的に提示して、これまでの成果や努力をほめる。 今までのスピーチで取り入れてきた表現の工夫をこれまでのメモをもとに具体的に思い出し、「スピーチ名人カード」に記されている表現の工夫のうち、まだ一度もスピーチに生かすことができていないものをめあてとするように呼びかける。 これまでのスピーチを振り返り、相手を見ること、声の大きさや速さ、間をあけること、身ぶりや手ぶりを入れることの中から目標を絞るように声かけをする。 最後のスピーチのめあては、これまでに身に付けたメモの書き方や生かし方を総合的に取り入れたものとして伝える。</p>	
<p>メモを作成してなりきりスピーチそのを行い、グループで互いに聞き合い、振り返る。</p>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(なりきりスピーチその) 《おみつさん、おれのおよめさんになってくれないかな。》 大工さんになって、およめさんに来てほしいと、おみつさんに話したスピーチを振り返ろう。</p> </div>	<p>【関・意・態】 《スピーチそののメモ》 これまでの学びを総合的に生かし、テーマに関連する叙述に即してメモを作成しようとしている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙の記述の分析)</p>
<p>(1) スピーチそののメモを作る。</p>	15	<p>なりきりスピーチそのへのめあてが持てるよう、「スピーチ名人カード」の工夫を総合的に取り入れてスピーチをすることをめあてとすることを確認する。 その際、「スピーチ名人カード」を黒板に掲示する。 大工さんがおみつさんにおよめさんに来てほしい思いを本文から具体的に読み取れるよう、P.20.L 6 ~ P.23.L 9を読むことを伝える。 テーマに合ったスピーチそののメモ作りができるように、教材本文の叙述に着目し、内容を理解する時間を取るようにする。 メモができたら、もう一つ別のメモを作成してもよいことを声かけする。</p>	<p>【言】 《スピーチそののメモ》 これまでの学びを総合的に生かし、テーマに関連する叙述に即してメモを作成している。 (児童が使用したメモ作成用紙記述の分析)</p>

第6時(スピーチ学習の集大成であるなりきりスピーチそのを行う見通し3にかかわる授業の後半である。太線枠内が検証に関係する部分。授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
なりきりスピーチそのを行い、それを自他で振り返ることにより、自分のスピーチの向上を自覚するとともに、スピーチへの自信を深め、学習全体のまとめをする。
- (2) 準備
(教師) 付せん紙、スピーチ名人カード(児童用・掲示用)、学習目標を書いた掲示物、

メモ作成用紙（児童用・掲示用）、なりきりスピーチそののテーマを書いた掲示物、フラッシュカード（掲示用）、スピーチ台、机、お面（大工）、ワッペン（「大工」の文字と絵の2種類）、カセットテープレコーダー9台（児童）教科書、筆記用具、赤鉛筆、

(3) 展開(6/6)

(於)第二音楽室

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
<p>メモを作成してなりきりスピーチそののを行い、グループで互いに聞き合い、振り返る。</p> <p>(1)スピーチそののメモを完成させる。</p>	15	<p>(なりきりスピーチそのの)</p> <p>《おみつさん、おれのおよめさんになってくれないかな。》 大工さんになって、およめさんに来てほしいと、おみつさんに話したスピーチを振り返ろう。</p> <p>前時に考えたなりきりスピーチそののへのめあてをもう一度見直し、「スピーチ名人カード」の工夫を総合的に取り入れてスピーチをすることをめあてとすることを確認する。 その際、「スピーチ名人カード」を黒板に掲示する。 大工さんがおみつさんにおよめさんに来てほしい思いを明確に見つけられるよう、前時に本文P.20.L 6～P.23.L 9の範囲から探したことを確認する。 テーマに合ったスピーチそのののメモ作りができるように、教材本文の叙述に着目し、内容を理解する時間を取るようにする。 全員が内容を正しく理解できるよう、机間指導を行い、児童の考えのいくつかをフラッシュカードで全体に示す。 よりよいメモとなるよう、何度も作り直してよいことを伝える。 【大工さんのおみつさんにおよめさんに来てほしいという思いについて】 ・おみつさんの作ったわらぐつ じょうぶでいいわらぐつ 見かけは不格好でも、使う人の身になって、 使いやすく、 じょうぶで長持ちする ・大工さんの強い思い 神様みたいに大事にするつもり</p>	<p>【関・意・態】 《スピーチそののメモ》 これまでの学びを総合的に生かし、自分のスピーチがより分かりやすいものとなるように注意し、スピーチへの改善点を探している。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードの記述の分析)</p> <p>【話・聞】 《スピーチそのの》 スピーチ名人カードのめあてを基に話したり、聞いたりできたかを振り返り、スピーチへの改善点に気付いている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>
<p>(2)スピーチそのの練習を行う。</p>	10	<p>自分なりに一番よいと思えるスピーチができるよう、練習時間を確保したり、メモの書き方や生かし方を具体的に助言したりしていくことで支援を行う。 話すことへの抵抗を緩和し、時間の効率化を図れるよう、スピーチ練習発表及び本番発表は、グループごとに行う。 その際、互いのスピーチの変化が見取れるよう、グループの構成員は、スピーチそののと同じ構成員で行う。 めあてを重点化し、聞き手にもそれを伝えるようにする。</p>	<p>【言】 《スピーチそのの》 スピーチ名人カードのめあてを基に話すことに着目して振り返っている。 (活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>
<p>(3)スピーチそのの本番発表を行い、互いのスピーチについての相互評価及び、自分のスピーチについての自己評価を行う。</p>		<p>スピーチ後、相互評価を効果的に行えるよう、付せん紙を活用する。 効果的な自己評価になるよう、「スピーチ名人カード」を活用する。 机間指導の際に、「メモの書き方の工夫、話し方の工夫」の中から一つでも改善点が見つけられていたら、積極的に認め、励ますとともに、これまでの学習を踏まえてのその子なりの上達ぶりを賞賛する。 前時のスピーチと比べて進歩してきた点をメモの書き方や話し方から、具体的に提示する。 分かりやすいスピーチの観点に気付くよう、児童の取組の様子を見取り、個の状況に応じて聞き役となったり、</p>	<p>(活動の様子の観察及びメモ作成用紙、ふりかえりカードそのの記述の分析)</p>

<p>今回のスピーチ学習を振り返り、スピーチへの自信を深める。</p>	<p>20</p>	<p>助言を行ったりする。 グループでのアドバイス後に、自分なりに重点的に取り組むめあてのうち、一つでもスピーチに生かせることができたら、具体的に賞賛する。 自分のスピーチを客観的に見直せるよう、ビデオなどの機器も活用するように助言する。 自分のメモの工夫に役立てるよう、友達の工夫例を黒板に提示する。 適切な言葉遣いに注意して話せるよう、個の状況に応じて、「どこで、どのように間を取るのか」等、具体的に助言する。 「スピーチ名人カード」を基に、これまでのスピーチで上達してきた点を具体的に指摘し、賞賛する。 最後のスピーチが効果的に行えるよう、これまでに身に付けたメモの書き方や生かし方を総合的に取り入れるように声かけをする。</p> <p>話すことへの自信を深めるよう、児童の上達ぶりを賞賛するとともに、国語として、考えを整理したり、相手に伝えたりする力が身に付いてきていることを話す。</p>
-------------------------------------	-----------	---